

《 会計課 令和7年度予算見積方針 》

部内マネジメント責任者

会計管理者 福西 弘充

予算見積にあたっての基本的な考え方および重点事項

【施策全体の方向性、基本的な考え方】

- 会計規則等に基づく適正な会計処理審査と公金の安全かつ確実な管理および運用に努めます。
- 効率的かつ正確な会計事務に努め、適正な会計処理の審査と迅速な支払い手続きを行います。
 - 市民の共有財産である公金を適正に管理・運用します。

【重点事項】

- 会計業務のうち定型的な業務をアウトソーシングすることにより、受託事業者の専門的知識の活用、業務水準の安定確保を図ります。
- 運用可能な資金について、安全かつ確実で有利な方法により運用を行います。

【健幸都市づくりの推進に向けた部内の考え方・主な事業】

【見 積】令和7年度 当初予算額(一般会計)

所 属	予算額(千円)		令和7年度予算の特徴
	歳出総額 (職員費を除く)	一般財源	
会計課	80,336	74,286	○会計審査事務等のアウトソーシング化により、安定した出納事務を行います。 ○基幹システムの標準化や公金収納のデジタル化など、国の方針に基づいて行われる公金収納に係るシステム改修に対応し、適切な公金収納事務を行います。
合 計	80,336	74,286	

【前年度】令和6年度 当初予算額(一般会計)

所 属	予算額(千円)		
	歳出総額 (職員費を除く)	一般財源	
会計課	56,662	56,662	
合 計	56,662	56,662	

【増 減】(【見 積】－【前年度】)

所 属	予算額(千円)		予算額の主な増減理由
	歳出総額 (職員費を除く)	一般財源	
会計課	23,674	17,624	○EB(データ伝送)による振込手数料の増加 ○会計事務審査等業務委託料の増加 ○新財務会計システムの導入に伴う公金収納サービスのシステム改修費の増加 ○自治体情報システムの標準化・共通化対応に伴う財務会計システムの公金収納機能の改修費の増加 ○公金収納のデジタル化(eL-TAXの活用)に伴う各種システム(公金収納サービスのシステム等)の改修費の増加
	0	0	
	0	0	
	0	0	
	0	0	
	0	0	
	0	0	
合 計	23,674	17,624	

主要な事業(新規・拡大・重点事業等) (一般会計および特別会計)

事業名	事業費(千円)	一般財源		事業概要

枠配分額(当該経費に係る予算見積上限額)に対する見積状況

所 属	一般行政経費(千円)			扶助費(千円)			枠配分額を超過した場合、その理由
	A 枠配分額	B 見積額	A-B ▲は枠超過	A 枠配分額	B 見積額	A-B ▲は枠超過	
会計課	10,965	34,533	▲ 23,568	0	0	0	・EB(データ伝送)による振込手数料の有料化(R6年10月1日～)により、当該手数料が半年分から年間分に増えたため。 ・国の方針(基幹システムの標準化、eL-TAXの活用による公金収納のデジタル化)や、新財務会計システムの導入に伴う各種システムの改修費が必要となったため。
			0			0	
			0			0	
			0			0	
			0			0	
			0			0	
			0			0	
合 計	10,965	34,533	▲ 23,568	0	0	0	

マネジメントの視点による財源配分、事務事業の見直し等の考え方について